**1-7** 社会貢献 ビジネス展開への可能性

# 繊細さんは人の気持ちを敏感に感じ取れるのか？

## ―HSP 特性の高低が顔画像感情判別課題に及ぼす影響―

作新学院大学大学院　心理学研究科　臨床心理学専攻　西谷健次研究室　1 年
小又 琉莉（こまた　るり）

【概要】本研究では、6 種類の感情を表した顔画像を提示し、HSP 特性の高低が感情判別にどのように影響するかを、89 名の被験者を対象として実験的に検討した。その結果、HSP 特性の高い者は若干正判別率が高かったが、感情ごとに正判別率は異なり、特に「悲しみ」は低かった。また，誤答に目を向け、HSP の自己防衛的な側面から考察を行った。
【栃木を元気にするには】HSP に対しては、心理専門職としての支援の充実が求められている。ビジネス展開への可能性については本研究では十分に検討できていないが、養命酒製造㈱がヘルスケアの一つとして取り上げていたり職業斡旋サイトで紹介されたりするなど、「繊細さん」が増えてきている現代社会におけるビジネス展開の可能性を、本研究から見出していただければ幸いである。

### １．問題と目的

HSP（Highly Sensitive Person）とは、Aron & Aron（1997）が提起した概念であるが、国内では 2020 年頃から「繊細さん」の名称とともに急速に知られるようになってきた。HSP は、ⅰ）情報を深く処理してしまう（Depth of processing）、ⅱ）刺激を受けやすい（Overstimulated）、ⅲ）周囲の些細な変化に気付いてしまう（Sensitivity to subtleties）、ⅳ）情動反応が強く共感しすぎてしまう（Emotional reactivity and high Empathy）という特徴（頭文字をとって“DOES”）を呈すると言われており、全人口の 15~20% 程度いると推定されている（Aron & Aron,1997）。

本研究は、HSP 特性の高い人が他者感情を正確に識別できるかを検討することを目的としている。Acevedo et al.（2014）は、fMRI（磁気共鳴機能画像法）を用いた実験の結果、「笑った顔」や「悲しい顔」の写真が提示されたとき、HSP 特性の高い人ほど関連する脳領域が活性化する傾向があることを見出している（飯村,2022）。彼らの研究および HSP の特徴から考えれば、HSP 特性の高い人は、他者感情を正確に識別することができるはずである。

### ２．方　法

【被験者】S 大学の学生 89 名
【提示刺激】「AIST 顔画像データベース 2017」より 60 枚の画像を選択した。感情の種類は Ekman(1976) の基本感情に相当する「怒り」、「嫌悪」、「恐れ」、「喜び」、「悲しみ」、「驚き」の 6 種類（各 10 枚）、画像のアングルは正面、右 45 度、左 45 度（各 20 枚）の 3 種類であった。提示順序はランダムとした。
【HSP 尺度】HSP 特性の測定には、高橋（2016）の HSPS-J19 を用いた。同尺度は、「低感覚閾」、「易興奮性」、「美的感受性」の 3 因子構造が仮定されており、19 の質問項目に対して 7 段階評価させるものである。
【手続き】実験は集団で実施された。顔画像は 1 枚ずつプロジェクターで 7 秒間提示され、被験者には、提示された顔画像の感情を「怒り」、「嫌悪」、「恐れ」、「喜び」、「悲しみ」、「驚き」の 6 種類のいずれに該当するかの判断が求められた。回答の時間は 4 秒であった。顔画像の提示にはパワーポイントを利用し、練習セッションで 12 枚、実験セッションで 48 枚の画像が提示された。顔画像の提示修了後に HSPS-J19 度に回答してもらった。

## ３．結果と考察

【HSP 得点と全体正答率】HSP 得点と感情判別正答率について回帰分析を行い、散布図に示した（Figure 1）。この結果から、有意差は認められないものの、HSP 得点が高いほど感情判別正答率が高い傾向がみられる。つまり、HSP 特性の高い人ほど、他人の感情を敏感に感じ取ることができる可能性があるといえる。

【HSP と感情別正答率】HSP 得点と感情判別正答率について、６つの感情別に正答率を求め、回帰分析および誤答分析を行った。その結果、「喜び」と「驚き」は全体的に正答率が高く、HSP 得点との相関はみられなかった。これらの感情は誰にとっても分かりやすいものであったと考えられる。また、正答率の低かった「嫌悪」と「恐れ」については、HSP 得点との相関はみられず、誤答分析の結果もまばらであったことから、これらの感情は誰にとっても分かりにくいものであったと考えられる。

しかし、正答率が中程度の「怒り」と「悲しみ」について、HSP 得点との相関は、有意差は認められなかったものの「悲しみ」で負の相関傾向がみられ（Figure 2）、誤答分析の結果どちらも「嫌悪」と誤答する傾向にあった。

以上のことから、HSP 特性の高い人は他人の「怒り」や「悲しみ」に共感するよりもそれらに怯え、避けようとするあまり「嫌悪」という別の感情に置き換えているといえる。つまり、HSP 特性の高い人は臆病がゆえに物事を正面から捉えることが苦手で、チャレンジ精神が育っていないとも考えられ、企業としてはそのような人たちに対する PR や人材育成を視野に入れる必要があるといえる。

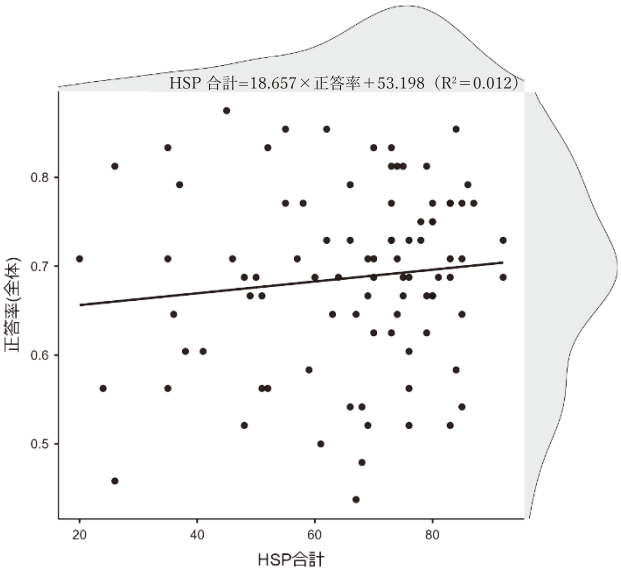


Figure 1. HSP 得点と感情判別正答率の散布図

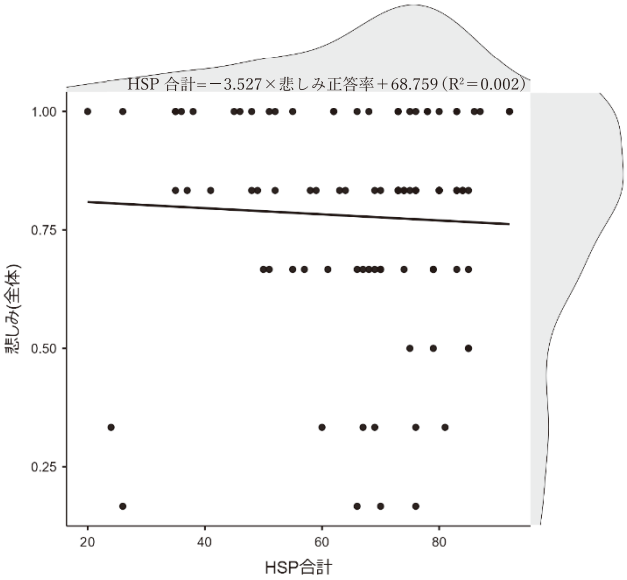


Figure 2. HSP 得点と悲しみ正答率の散布図

## ４．引用文献

文部科学省　2023　「令和４年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」

Aron,E.N.,& Aron,A.(1997) Sensory-processing sensitivity and its relation to introversion and emotionality. Journal of Personality and Social Psychology, 73, 345–368